優秀賞

ぼくがかみをそったわけ

茨城県 笠間市立笠間小学校三年　土肥 馨

ぼくの家はお寺です。お父さんは、住しょくをしています。九才になると、とくどをうけておしゃか様の弟子になることができます。ぼくは、今年の五月で九才になるので、お父さんからとくどをうけるかどうか聞かれました。ぼくは、とてもなやみました。なぜなら、とくどをうけるためには、かみをそらなければいけないからです。かみをそったら、友だちにからかわれたり笑われたりするんじゃないかと思い不安でした。それに、はずかしい気持ちもありました。二月までに決めなければいけないのに、ずっと迷っていて決められませんでした。そこで、ぼくが二年生の時の担任のあらき先生に相だんをしました。先生からは、

「ふ通の家の人だとできない事だし、せっかくお寺に生まれたならやってみたらどう？」

と言われ、ぼくはとくどをうける決しんがつきました。

それからお父さんと、毎日作法やおきょうを読む練習をして、とくどをうけるためのテストに合格することができました。

いよいよ出発の前日になり、かみをそりました。本当はそりたくなかったけれど、かくごを決めてそりました。でもやっぱりはずかしくて、ぼうしをかぶってしまいました。

八月四日、「とくど式」をうけるため京都の東本がん寺へ行きました。ぼくと同じ年くらいのかみをそった子が何人もいて、仲間がいるんだと思い、安心しました。しょうぞくに着がえ、お堂の中に入りました。ろうそくだけの明かりの中、おかみそりをあててもらいました。そして百人以上の人といっしょに、おきょうを読みました。こんなにたくさんの人とおきょうを読んだのははじめてで、みんなの声がひびいて自分の声が聞こえないくらいでした。ぼくは、とくどをうけて「教馨（きょうけい）」という名前をいただきました。

とくどをしてから、三週間がたちました。ぼくのかみは六ミリくらいにのびて、だいぶ黒くなりました。夏休みになる直前に、担任の成田先生がクラスのみんなに、ぼくがとくどをしてかみをそることを話してくれました。ぼくは、自分の見た目がかわる事で、からかわれたりしないか心配でした。でも、夏休み中に会った人たちは、だれもぼくをからかったりしませんでした。「かっこいいね」や、「さっぱりしていいなぁ」と言われ、とてもうれしくなりました。

ぼくは、自分が人とちがう見た目になってはじめて、見た目で人を差別してはいけない事がわかりました。はだの色や病気で体が不自由な人などがいる中で、そういう人を見た目で差別するのはよくない事だと、心から思いました。ぼくは、とくどをしておしゃか様の弟子になったので、だれにでもやさしく、見た目で人を差別しない人になりたいと思います。